

つながれ！ 私たちの心

6年 S・Kさん

3・11が起きた時のことを私は知らない。その時、私はまだ母のお腹の中にいたからだ。母からは、関東でも大きなゆれがあり停電・断水に加え、放射能がもれてお腹の中にいる私に影響がないか心配したこと、メディアで報道される被災地の様子は想像を超える悲惨な状況だったということを知ることがある程度だった。そんな私にとって実際に津波の被害にあった方の話を聞くのはこの本が初めてだった。

大沢小学校に続く全校表現劇と学校新聞「海よ光れ」や、魚賀波間神社のお祭り、海での遊び：うらやましくなるような環境が津波で一変し、大切な人や家、何もかもを一瞬で失ったショックだけでなく、ライフラインも断たれて自分だったらどうするかと思うと言葉も出ない。そんな状況でも、それぞれが自分でできることを積極的に担う強さに感動した。そして、新聞やはげましの手紙がこれほどまでに人の心を動かし、頑張ろうと思える力の源になるのだということを知ることができた。そして、この震災では周囲との協力・思いやりの精神が極めて大切だった。大沢小学校でそれができたのは、日頃から町全体が一体となってお互いに助け合い、大切に合う精神が根付いていたからにちがいないと思う。

私の小学校のクラスでは、協力・思いやりが目標の一つにかかげられている。そして、それができる友達がたくさんいる良いクラスだ。いつ、また大きな震災がおきるかわからない。そんな中で友達や周囲の人と助け合いながら、私にできることを一つ一つやっていきたいと思う。また、自然は海があり人がいてすべて成り立っている。なので、もしまた自然が震災をおこしたとしても、大沢の町の人たちのようにみんなで協力してさまざまな困難を乗り越えていこうとこの本を読んで強く決意した。